

49 道鏡の降雨祈願

伝承地：石那田町1493

参考書籍：36



(高霧神社)

く崇敬したということである。

弓削道鏡は、天皇の位を狙ったため下野薬師寺に流された天下の悪僧ということになっているが、石那田町の岡坪地区には徳のある僧としての道鏡が伝承されている。宝亀元年(770)、弓削道鏡は薬師寺の別当として下野に配流され悲嘆な日々を送っていたが、ある時、多くの人々の信仰を集めていた男体山に参拝することを思いついた。

道鏡は、今の岡坪の地までくると、大千ばつで苦しんでいる里人の姿を見てなんとか助けようと考えた。そこで、道鏡は近くを流れる田川の龍神に一心不乱に祈り続けたところ、一転にわかには雨雲におおわれ2日にわたる大雨となり農民を救ったという。里人は道鏡を慕うと共に龍神を高霧神社に合祀し末長



50 飛山城の白ナマスと古井戸

伝承地：竹下町

参考書籍：23・32



(飛山城と鬼怒川)

その後、白ナマスに化身して今日も生きていくという。また芳賀氏の菩提寺として飛山城と密接な関係がある同慶寺には、飛山城の抜け道だったと伝えられる古井戸がある。これを裏付ける話として古井戸に落ちたなべ蓋が鬼怒川の淵に浮かんでいたという言い伝えがある。

飛山城は鎌倉時代末期の永仁年間(13世紀末)に、宇都宮氏の家臣である芳賀高俊が築城したと伝えられている。

この城は、高俊以後、慶長2年(1597)豊臣秀吉の命により廃城となるまでの300余年にわたり存続した。つまり、宇都宮氏の存亡と運命をともにした城だった。

史実は定かではないが、お家騒動が原因でお姫さまが断崖から鬼怒川の淵に身を投げ自殺した。そ

